

# オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2022年4月10日第17号(通巻23号)  
 オリーブの会  
 大阪府豊能郡能勢町平通101-453  
 tel/fax:072-737-9454  
 mail: olivenokai\_zeytun@yahoo.co.jp  
 facebook:oribunokai

## ウクライナとパレスチナ



イスラエルに到着したユダヤ系ウクライナ難民



エルサレムで占領軍に弾圧されるパレスチナ人

ウクライナへのロシアの侵略が始まって以来、パレスチナでのイスラエルの占領への米欧の対応の違いなどが、注目されてきた。そのちがいは、どこにあるのかをみていきたい。

### 2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵略の本質はなにか

ロシアは、ウクライナのネオナチ化を阻止するなど口実に侵略を行った。また、ドネスク、ルガンスクなどで、親ロシア派の政権から、ウクライナ軍から攻撃を受けており、支援の要請があったなどとしている。

ロシアは、ウクライナで2014年に親ロシア政権が倒れて以来、ウクライナ国内での反ロシア、親西欧の流れがウクライナ国民の主流になり、ウクライナがNATO化することを恐れた。ロシアが、ウクライナのNATO化をしないという確約を求めたのにしたいし、ウクライナはNATOへの加盟をもとめ、米国などは、加盟は自由であるとした。

これを阻止することを目的とし、ウクライナに親ロシアの傀儡政権を立てることを目標とした軍事行動を開始した。その口実を強めるために、ドネスクとルガンスクの二つの分離主義の共和国を承認し、その保護のためという口実もつくった。

この両共和国は、2014年にクリミア半島を軍事占領し併合したと同時にウクライナの親ロシア政権が倒れた後の東部の親ロシア住民とウクライナ政府の内戦によって、ロシアと支援を受けて成立したものであり、その際に結ばれたものがミンスク合意である。その合意はウクライナにとって実行しがたいものであり、ウクライナ軍と分離主義者の戦闘は続いてきた。

### この時期に起こったのはなぜか

2014年に始まるクリミア併合から続く、ウクライナの親西欧化に対して、脅威が生まれてきたとロシアに感じさせてきた。

この侵略行為は、戦争を引き起こしたのが核保有国であり、安保理の常任理事国であることによって、冷戦時代をも通じて形成されてきた第二次大戦後の世界秩序を根底から覆し、人類を第三次世界大戦の恐怖に落とし込めることになった。世界大戦を起こせば、人類の破滅をも引き起こしかねないものになる。

米国をはじめとする西欧が一体となって、ウクライナ支援とロシアへの制裁を行ったが、直接の対決となることは避けている。直接の対決は、核戦争になりかねず、また、第三次世界大戦に欧州が引き込まれる危険性があるからである。

ロシアの無謀な行為は、NATOの東進を止めるどころか、

## オリープの会通信 第17号(通巻23号)

これまで中立であったところを含めて、NATOと共同し、加盟にも積極的にさせている。

そして、プーチン政権の言論統制にもかかわらず、戦争に反対し、プーチン政権を批判する声が強まっている。戦況が当初の計画通りいかず、長期化するなかで、政権内部でも批判的な傾向が生まれている。

ロシアのウクライナの中立化、非武装化の要求は正当か。これは、ウクライナに降伏しろと言っているにすぎず、ウクライナにとって受け入れがたいものである。

ロシアは、ウクライナ国民の団結と自らの国を守る決意と米欧の支援の前に、戦争が長期化せざるえず、制裁による国民生活の困難と戦争のロシア側の実際の被害が明らかになるにつれて、プーチン政権は、持たなくなる。

また、指摘しておかなければならないのは、経済のグローバル化によって、相互依存性が深まる中で、領土をめぐる戦争が起こりにくくなっているという考えは、吹き飛んでしまい。経済制裁がもろ刃の剣になっているように制裁をする国も無傷ではなくなっている。

### 漁夫の利を得るイスラエル。仲介者なのか

イスラエルのベネット首相は、ウクライナとロシアの仲介をすることで、動いたが、ロシアの侵略を抗議する国連決議には、賛成したが、ウクライナからの武器供与の要求には、応えず、ロシアとの関係を考慮したと思われる。とくに、シリアでの協調関係を維持するためと言われているが、欧州で危機が起こると、イスラエルは、欧州のユダヤ人のイスラエルへの移民をすすめる機会と考えており、ウクライナのユダヤ人だけでなく、ロシアからのユダヤ人の移民に期待している。イスラエルにとって、ユダヤ人の人口を増やすことが、戦略的なイスラエルの利益になるからである。パレスチナ人に対する民族浄化と一体のものとしてある。

### イスラエルによるパレスチナの占領

一方、イスラエルによるパレスチナの占領は、国際法違反として、国連で非難されてきたが、実行力をともなう仕方では、イスラエルに強制されたことはない。とりわけ安保理常任理事国の米国が一貫して、イスラエル擁護立場をとり、ことごとく、安保理でのイスラエルの批判する決議を阻止してきた。いまのロシアが自国を守るためにやっているように。

米国だけでなく、ユダヤ人問題を引き起こしてきた欧州は、イスラエルに対しては、寛容である。もともと、英国が、パレスチナへのユダヤ国家の建設をみとめたことに始まっている。

イスラエルへの制裁は、市民運動が、BDS運動として行っており、国家的な制裁はなされていない。

反対に、抵抗運動を行っているパレスチナ人に対しては、テロ、テロ組織と規定されて、欧米からの制裁を受けている。ウクライナで抵抗している人々が英雄とされているのは、対照的である。

### ウクライナ侵略とパレスチナの占領との違い

ウクライナへのロシアの侵略は、NATOの東進を恐れるロシアが国連の安保理の常任理事国であるにもかかわらず、武力行使を行って、西欧寄りの政権を親ロシアの政権にすることで、反対にこれまで、中立であった諸国までもNATO側に走らせており、NATOの東進を防ぐのとは、反対の効果を生んでおり、ウクライナのネオナチ政権を倒すとしているのが、西欧がナチ化しているという主張するまでになっている。自らのウクライナ侵略の結果として起こっていることまでをナチ化しているということで、正当化しようとしている。

イスラエルの侵略は、もともと、欧州のユダヤ人問題の解決として、当時のソ連を含めて、国連がつくりだしたものであり、パレスチナ・アラブ人の意思を無視して、パレスチナを分割して、シオニストに領土を与えたことに端を発しており、シオニストだけが、侵略をしたわけではなく、国際社会に押し付けられたものであり、パレスチナアラブにとって、初めから不利な状態に置かれていた。アラブ諸国も、分割に反対であり、軍事的に阻止しようとしたが、西欧に支援されたシオニストに敗北した。そして、パレスチナは、二度の中東戦争の敗北のまゝに、自ら立ち上がったが、67年戦争でのアラブが敗北し、シオニストの占領パレスチナ全土に拡大した。その敗北のなからパレスチナは、自力での武力の解放の道をとったが、その戦いは、民族解放闘争であるよりは、テロとされた。

さらに、パレスチナは、1982年イスラエルのレバノン侵略とベイルート包囲によって、ベイルートという拠点を失い、PLO指導部は、チュニスに移り、シリア経由でレバノンに戻ったパレスチナ勢力との路線の違いが鮮明になり、PLOの主流派は、政治交渉による解決の方向に向かい、それが現在のオスロ体制になっている。米欧に助けをもとめても、ウクライナのような支援は存在しないし、シオニストの蛮行を止めることはしない。

この違いはどこにあるのか、侵略する側は、米欧と対峙しているロシアであることで、パレスチナを占領するシオニストは、米欧の支援を受けている。自治政府が、

米欧にすりよろうと、シオニストを妥協させることはできず、占領者の要求にしたがわせられることでしかない。

### 主権の尊重に基づく平和を実現しよう

相互依存関係が深まった世界で、ウクライナ侵略が起こることが信じられないという人も多いのでは、ロシアの侵略を受けたウクライナの人々が21世紀にこのようなことがおこるとは思わなかったと語ったように、人々は信じられない思いで、この侵略に立ち向かわざるを得ないことになった。

そして、国連が機能していないことが言われている。今回は、常任理事国のロシアが当事者であることで、拒

否権行使を自国のために行った。パレスチナ問題では、米国がイスラエルのために拒否権行使を行い、イスラエルを防衛した。

国連の平和維持機能は、安保常任理事国が自国のための利害で動くことで、機能しなくなっている。また、米国はそのために、国連安保理を通さずに多国籍軍を組織して、中東、アフガンへの軍事攻撃をおこなってきた。

各国、各民族の主権の尊重に基づく、民主的な国際機関として、国連を平和のための機関として改革することが必要とされている。そして、主権に基づく抵抗闘争は、テロではない。主権をまもるたたかいである。



投稿：2022年2月28日 | 14:16 (PFLPのホームページより転載)

現在、通信社で噂されているように、また多くの欧米の大作家や政治アナリストの言葉にもあるように、ロシアの攻撃開始によって戦争の段階に移行したウクライナ危機は、世界が直面している第二次世界大戦後の最も危険な危機、核ミサイル危機を思わせる危機と評されています。前世紀の60年代、カストロ議長時代にキューバ島にソビエト軍が駐留し、その解体を命じた当時のソ連指導者フルシチョフの英断と政治的知恵がなかったら、二大極間の壊滅的な核戦争の勃発を恐れ、世界が息を呑んだあの時代に予想されただろう……。

今、冷戦終結後初めて、核軍勢力において旧ソ連を継承し、東欧やアジアとの国境に位置する地理的な大きさと地理的条件を備えたロシア連邦の軍事的対峙が復活する。そして、同盟を率いる米国と加盟国、特に英国との間で実際に調整が始まった時期に、米国大統領がロシアへの金融・経済制裁に加えて、同盟によるウクライナ防衛の用意があると表明した米国主導のNATOとの間では、同盟はこの攻撃を予期していた。従って、その軍幹部の一人は、ポーランド、ブルガリア、ルーマニア、ハンガリーといった同盟の一部である東欧諸国に対してより軍事能力を押しつける意図を表明していたのである。

こうして始まったロシアの攻撃は、ウクライナの防空システムを無力化し、多くの空港や軍事基地の即応性を麻痺させるだけでなく、その行き先はウクライナの首都キエフに達し、西側に忠実な右派政治体制を転覆させ、モスクワに忠実な新政府を樹立することを目的とすると

予想されていた。西側諸国は、民主主義と国際法に対する侵略であると考え、バイデン大統領を議長とし、国防相と国務相を含む、ロシアの攻撃開始後に招集された米国国家安全保障会議でもそのような見解が示された。

また、ここで注目すべきは、戦略演説で軍事攻撃開始の合図を出したプーチンが、民主的政治体制が実践しがちな政治・外交努力とはかけ離れたこの戦争行為、そしてロシア外務省が実際に無駄な実践をしていたこの行為こそが正当であるという意見であったことである。NATOの東方への拡大や、ウクライナ、グルジアなど旧ソ連諸国のNATO加盟への決意によって脅かされたロシアの国家安全保障を守るためであり、EUが国際政治の最大の極としてその利益を達成するためにNATOに依存しているからである。今回の軍事行動も、ソ連時代に存在したウクライナ東部のロシアの人的プレゼンスを守る、つまり根こそぎ追放されないように守る、というロシアの公式見解からすると、このような形で実施される。

ウクライナ危機の原因やその悪化、戦争の段階への移行の原因が何であれ、過去に世界資本主義体制と社会主義体制の間で起こった政治危機と異なるのは、それが階級闘争から遠く離れていることである。ロシア連邦は、旧共産主義のソビエト連邦ではない。そのため、第三世界の国々の民族解放運動や左翼政党の立場を著しく失わせている。世界の超大国として自らの重要な国益を求めているロシアに提供できる支援の量について、すべての者が客観的理由を見つけたわけではないからだ。



## 変化する世界の中のウクライナの悲劇

投稿：2022年2月28日 | 14:15 (PFLPのホームページより転載)

ウクライナ危機の最初の場面とその波紋は、新しい世界秩序を予感させる。

大規模な軍事的対立にエスカレートした事件の表面上に見えるものよりも、炎の輝きの下に、より広範で危険な戦略的計算が現れている。

危機の本質を考えると、それはほとんど宣言されつつある新しい事実の实地試験であり、冷戦終結後の30年間、国際関係を支配してきた同盟関係、メカニズム、基本ルールの根底にある改訂である。

私たちは、新しい世界秩序のための帝王切開に直面しているのである。ウィーン会談でのイラン核合意の復活が目前に迫っていることと合わせて、我々は、その事実と均衡が明確でないまま発表されようとしている新しい地域秩序のためのもう一つの帝王切開の出産に直面している。

最も危険なことは、私たちがその新しい現実を認識することなく、迷宮や地雷原に足を踏み入れ、同時に、利用可能な機会と潜在的な危険に対して準備不足のまま、異なる領土を前にしていることに気づくことである。

ウクライナ危機の複雑な状況の中で、勘定と利害が対立し、大規模な戦争に陥ることは避けられなかったが、それはコントロールされており、世界のどの当事者にとっても、その利益と安全保障への影響を無視することは不可能であろう。

第一に、ロシアの安全保障上の計算である。国境に「NATO」が駐留し、そこに高性能ミサイルが設置され、キエフが旧ソ連の技術的ノウハウに基づく戦術核爆弾を保有することを受け入れることは不可能であると、ウラジーミル・プーチンは軍事行動開始前の別のパブリック

スピーチで、説明している。

その中で彼は、「ドイツ統一問題が議論されていた時、NATOの拡大はなく、その軍事的立場は東に1インチも変わらないと約束した」と、1990年以来自国が受けてきた欺瞞について長々と語っている。

プーチンによれば、西側諸国は自らに課した約束と保証をすべて反故にしたのである。

第二に、アメリカの戦略的計算と、老朽化した世界秩序の基盤を維持する理由である。

ワシントンは恐怖心を煽り、そのうちのいくつかは十分に根拠のあるものであり、署名された協定に従ってロシア人を安心させるために何もせずに、侵略の可能性に対してヒステリックな形をとったプロパガンダによって、西側同盟の亀裂を修復しようとしたのであった。

第三に、欧州の安全保障勘定。欧州の指導者たちは、ウクライナで決まったことを集団で認めるような形で傾向している。

大きな疑問は、銃の沈黙の後に生じるだろう。欧州の安全保障の概念は何か？変化する世界の中で、敵は誰なのか？それとも、フランスのエマニュエル・マクロン大統領が提案したように、米国から離れた安全保障システムを模索する時期が来たのだろうか？

第四に、経済的資源と軍事的能力を有する中国にも同様に深刻な問題があります。NATOに対抗するロシアのクマとの政治・経済・軍事同盟の構築をいつ発表するのか？

中国はウクライナ危機の「ロシアの理由を理解」しているが、同時に「国家の主権」の尊重を確約している。

中露同盟の構想が地に足がつくまでには、長い時間がかかるということだ。

第五に、この地域の危機、その悪化の可能性、解決の可能性を示す安全保障・戦略上の問題である。

トルコ、イラン、イスラエルという3つの主要な地域プレーヤーを除いて、この地域のほとんどの国は、何が起こるかわからないということを理由に、決定的な意見の表明を避け、あるいは一般的な外交表現で満足する傾向がある。

トルコは、NATO加盟国であることを理由に、彼の発言や立場を採用し、同時にロシアとの仲介役を演じようとし

た。

イランは、ロシアの同盟国と足並みを揃えており、モスクワと北京の間で予想される同盟の将来の当事者となることを証明している。

そして、イスラエルの立場はすでに知られている。西側諸国との歴史的・戦略的關係は拡大し、多くの問題でモスクワと理解し合うための窓は開いており、その中でも最も重要なのがシリア・ファイルである。しかし、武力による他国領土の併合に反対する姿勢を示したことで、思わぬ衝撃を受けた。ロシア側は躊躇なく、シリアの「ゴラン・占領者」を思い浮かべた。



2022年2月8日投稿 (PFLPのホームページより転載)

2018年に開催された問題だらけの民族評議会の帰結として出てきたパレスチナ解放民主戦線もしくはパレスチナ人民党の中央評議会への参加の同意は、パレスチナ解放機構にはびこっていた政治的・財政的間借りの論理への服従以外の何ものでもなかった。この論理は民族解放運動をコントロールしていく方法として、合意形成よりも割り当てと同意を活用するものであった。(この中央評議会において) 必要とされたのは、サミットで国が決めたアラブ世界における進歩と反動の間の選別プロセスを問題についてほぼ限界までの連帯という形に移行させた官僚的な枠組みではなく、効果的な民族戦線と合意に基づく「パレスチナ」が必要だった。(実際には) 評議会は民族的な大きな責任を免れるための組織づくりを後押ししたのだ。

この評議会に出席し、その議事に参加するのが悪いのか、それとも、このように誰にも弱みを隠されていない

パレスチナ解放運動の、つまりはその弱さと病いに照らし合わせての運命が悪いのか？(議題の) 見出しが武装闘争から安全保障の調整に変わり、政治プログラムをめぐる闘争からPLOの生み出した利益、ギフト、場所、地位をめぐる闘争へと変わったこと、そして引き換えにPLOがその職務と使命をハチ(の例え話)に言及することとしたことは驚くに当たらない。ハチは女王バチにワクチン接種をしようとし、その後に死ぬことを目的とする。今やこの組織はもともと公正な人間の大義についての権利を放棄する最終証書に押印することを望み、その後には、丁度ナクバ(大惨事)の後にアラブ高等委員会が埋葬されたように、葬送の儀式もないままに暗黒の歴史書に埋もれることとなる。

影響力を有した指導部は軒先を借りているだけの左派の派閥なしでも評議会を招集することが出来たし、その召集のための全手順を精巧に組み上げる度量も失うことはなかった。借家人のような左派たち

## オリープの会通信 第17号(通巻23号)

は指導部に対し「その命運がどうであれ、望むものを…あなたたちこそが優勢を勝ち取った者なのだから、判断を」と伝えた。こうした言葉は、服従させられ、奪われ、浪費されているにもかかわらず、指導部の他者に対する抑圧や篡奪、浪費を引き起こす。

しかし、その一方で、この評議会に反対しボイコットすることで、歴史のために状況を記録し、この民族的な雪崩を押さえることに向けてその後の一歩も踏み出さないでいることは異議申し立ての形として十分かつ有意であろうか？

ボイコットという行為は必要かつ妥当なものであるかもしれないが、民族的・政治的な混乱の進行する状況に直面する中で、スポンジのようにすべてのショックを緩和し飛びかかることも立ち上がることもしない人々に、いかにして闘う気概を取り戻させることが出来るだろうか？

確かに、こうした現状は革命的前衛を必要とする。その前衛がもはや人々の信任を表したのではなく、無力さや優柔さ、絵に描いた餅としての団結へのロマン

ティックな想いの産物であり、何も持たない者が雨に打たれエルドアンによるシリア人難民のガザ入植プロジェクトに寄付を集める地域プロジェクトに関連した産物であったとしても。

こうした前衛は、それがこれまでの全ての段階における埃と経年劣化をふるい落とさなければきちんとまっすぐには成立しないだろう。政治的、財政的な金のやり取りという糊口をしのぐことでの錆を洗い落とさなければ、左派がそうであったように真っ当にはなりえないだろう。そしてこれは、強固な慣習に即して暮し、全ての側面において脇を締める代わりに手を広げて暮らしてきた層には高くつくことになる。

私たちは、女王パチを守り、(働かない)雄パチにそれが死ぬまで仕えるために毎日精を出す働きパチのようである必要はない。政治や組織、闘争形態が必要とするのは、闘う者のためにいかにして計画を組み上げればよいかを知る士官であり、書類や合意文書をぺらぺらやりながら日常業務に明け暮れる管理官ではない。それは無能と依存の証拠である。



投稿：2022年3月14日 | 08:48(PFLPのホームページからの転載)

今日は、パレスチナ解放人民戦線書記長のアーメド・サーダット司令官と、シオニスト大臣レハバム・ゼエヴィの暗殺を実行した4人の仲間が、フアド・アルショバキ少将とともにジェリコ刑務所から誘拐された記念日である。

2006年3月14日、占領軍は、自治政府と英米の明確な共犯関係によって、自由戦士アーメド・サーダットとその仲間を逮捕するために、パレスチナ自治政府のジェリコ刑務所を襲撃した。占領軍は、包囲の後に刑務所に突入し、その壁を破壊した。この作戦の間に、シオ

ニスト勢力は、リーダーのサーダットと4人の同志を誘拐し、捜査の地下室で拷問にかけた。その後「イスラエル」当局は、戦士サーダットを占領に対する抵抗の罪で軍事裁判にかけ、その罪の中にシオニスト観光大臣レハバム・ゼエヴィの殺害はなかったとするものであった。

オフエル刑務所の軍事法廷に提出されて以来、戦士サーダットは、軍事法廷の正当性を認めず、被告人の立場に立つことを拒否してきた。占領当局のあらゆる圧力にもかかわらず、サーダット司令官は、歴史的パレスチナの軍事占領を永続させる道具と考えるこの法廷に立つことさえ拒否した。

彼は、裁かれるべきは自由の戦士ではなく、パレスチナ人に対する最も凶悪な形態の殺害と破壊を行うイ

スラエルの戦争犯罪人であると考えたのである。

### 陰謀の章

この恥ずべき陰謀は、人民戦線の前書記長アブ・アリムスタファを暗殺した罪に対するシオニスト国家へ報復として、パレスチナ人の作戦を遂行した戦線ゲリラグループを迫害することによって始められたもので、すべてのパレスチナ人の強制移住を訴えていた過激派人種差別主義者のシオニスト観光大臣レハバム・ゼエビを殺害したものである。

シオニストの敵軍はヨルダン川西岸に侵攻し、パレスチナ大統領ヤセル・アラファトの住むムカタ本部を包囲し、サーダトと彼の仲間はそこに拘束された。この出来事背景を要約すると、弁護士の一人在、アーメド・サーダット司令官の言葉を引用しながら、事件の経過について次のように詳しく紹介した。

当時パレスチナ情報局の局長であったタウフィク・アルティラウィは、国政に関するいくつかの問題を話し合うために、アーメド・サーダット司令官との面会を要請しました。

会談は2002年1月15日にラマラのホテルで行われました。会談の開始前に、タウフィク・アルティラウィはアラファトの事務所に呼び出され、戻ってくると、ヤセル・アラファトが署名したアーメド・サーダトの逮捕状を持ってきました。

サーダートはムカタ・ビルに連れて行かれ、ナスル・ユセフ少将の事務所で拘束された。

数日後、サーダートは大統領警護隊として知られる第7師団の本部に移送され、そこで拘束された。

検察官のハレド・アルキドラはサーダットの逮捕を非難する有罪判決を出し、彼の即時釈放を要求したが、命令は実行されなかった。

2002年3月29日、シオニスト軍はムカタア本部に侵入し、アラファトの事務所を包囲した。

サーダートの身柄をヤセル・アラファト大統領事務所に移送。

シオニスト占領軍は、ムカタ周辺からの撤退と引き換えに、ムカタ本部に拘束されているサーダートとその同志、ベツレヘムの聖誕教会に避難している過激派の引き渡しを要求した。

交渉は、以下の人物の仲介で行われた。アブマゼン、ムハンマド・ダーラン、サエブ・エレカト、ヤセル・アベド・ラッポ、ムハンマド・ラシード、アブドラ王子、オムリ・シャロン、トニー・ブレア。

パレスチナ自治政府は、パレスチナ街道での爆発を恐

れて、アーメド・サーダット司令官とファド・アルショバキ少将を除く他の人たちの引き渡しに応じようとしたが、自分たちの欲しいものを知っているシオニスト敵当局が拒否したのである。

パレスチナ自治政府は、英米が提出したシオニスト当局に代わって過激派を永久に拘束する提案を受け入れることを承諾し、次のようなボイコット包囲網が合意された)。

この後、ムハンマド・ダーランがサーダト司令官に対して、合意内容を含む申し入れを行い、それに対する意見を求めた。サーダートは、自分の基本的に違法な拘束に異議を唱える限り、ニューディールの下で拘束を継続することにどう同意するのかと答えた。

2002年5月1日、サーダートとその仲間は、英米の監視員の下、アメリカ大使館所有の車でエリコ中央刑務所に移送され、英国の監視とガード下の刑務所内の別棟に入れられました。

サーダートの弁護団はパレスチナ高等裁判所に訴訟を起こし、同裁判所は2002年6月3日に彼の釈放を命じる決定を出しましたが、彼の前の検察官の決定と同様に実施されませんでした。

アハメド・サーダトを釈放するパレスチナの裁判所の決定の後、英国の看守から、4者間で交わされた協定がこれを許さないの、刑務所を出るなという警告が出された。

エルサレムの英国総領事も刑務所を訪れ、同様のメッセージをアハメド・サーダットさんに伝えていた。

その後、アブ・マゼンは新聞社のインタビューで、アハメド・サーダトを不法に拘束する決定について、「すべての損失を伴う地区襲撃を行うか、永久拘束協定にサインするか2つの選択肢があり、アブ・マゼンはこれを合法的で成功した交渉だと考えている」と正当化している。

サーダートと彼の仲間は、2002年3月1日以来、パレスチナ自治政府、シオニスト自治政府、アメリカ自治政府、イギリス自治政府の囚人として、ジェリコ刑務所にいるのである。

シオニストは、刑務所を襲撃する前に、アメリカやイギリスとすぐに合意し、看守を撤退させた。その後、何が起こったかは誰もが知っている。

弁護士は疑問を持ち、大急ぎで探した。2002年1月15日にヤセル・アラファトがアーメド・サーダトを逮捕するよう命じた理由は何だろうか？真のラディカルを撲滅するというシオニストのプロジェクト達成に協力することが、パレスチナ自治政府の義務なのだろうか？

そして、アブ・マゼンが、ジェリコ刑務所を襲撃してサーダットとその仲間を逮捕するというシオニストのやったことを糾弾したのはなぜだろうかと。当時、彼はサーダットの不法逮捕と4年間の拘束に貢献したのだろうか？彼は、不法な拘留によって、彼を敵シオニストの当局に引き渡したのではないだろうか？彼はまた、アブマゼンが大統領に就任して以来、なぜ彼を解放しないのか不思議に思っていた。アブ・マゼンは、拘束命令で彼の永続が規定されている限り、闘争家サーダットが刑務所で死ぬことを望んでいたのだろうか？

自治政府での拘留中、弁護士は、彼のケースを調べることをパレスチナ司法の特権とするパレスチナの法律に従って、パレスチナ自治政府の高等裁判所に彼の釈放を求めて提訴した。2002年6月3日、彼の釈放を求める判決が出されたが、パレスチナ自治政府は最高裁の判決の履行を拒否した。サーダットは、このサイトが承認された後も、当局の内務大臣の地位にあるすべての人に会い、彼の状況の法的記述とそれを修正するための手段を明示するよう求めたが、無駄であった。

ある軍事法廷での起訴状に対し、書記長は裁判官たちに言葉を向けながらこう言った。「しかし、私はまた、我々の大義の正義と我々の国民の決意から、この法廷／芝居のいかなる役割も拒否し、自由の囚人として利用できる移動空間がいかに狭くとも、我々の国民とともにあなたの占領に抵抗するという私の決意と矛盾しない論理的バランスを維持するという意志を持っている。

### 人民戦線の立場

パレスチナ解放人民戦線は、シオニスト勢力が人民戦線書記長である闘士アーメッド・サーダットとその仲間をエリコの当局刑務所から誘拐した犯罪を、わが民族に対するシオニストの継続的侵略の一章であり、敵のテロ行為のさらなる証拠であると考えて、アーメッド指導者の生命維持に敵シオニストが責任を負うとみなした。サーダットとその仲間たち、そしてフアド・アル＝ショバキ兄の命を守るために、敵シオニストに責任を取らせる。サーダット同志は深刻な健康状態に苦しんでおり、必要な医療を受けることなく長期間の独房監禁を受けたことで悪化している。

戦線は、戦線が発表した公的声明で次のように述べている。2006年3月14日(火)の朝、シオニスト勢力は、人民戦線の書記長である闘士アーメッド・サーダットとその仲間をエリコの当局の刑務所から誘拐するという犯罪を犯し、すべての人間の価値、規範、国際法を無視し、国際法を破り捨てたのである。アメリカやイギリスの政

権の援助を受けて当局が占領軍と結んだ屈辱的な協定によれば、闘士アーメッド・サーダットとその仲間は、当初逮捕されてアメリカやイギリスの監視下におかれた。さらに、パレスチナ解放人民戦線は、シオニスト占領軍は米英の共犯による書記長誘拐の犯罪に直接責任を負う一方で、パレスチナ自治政府とその治安サービスにも、書記長の逮捕という当初の責任を負っている、と付け加えた。

戦線は、執行委員会の議長および自治政府の大統領に対し、公式のアラブおよび国際機関(アラブ諸国連盟、国連、イスラム労働機関、アラブおよび外国の首脳、ならびにアメリカおよびイギリスの政権)と効果的に行動し、書記長とその仲間を解放するよう敵シオニストに圧力をかけることを要求した。

戦線は、アラブや外国の友好的な勢力や政党に対し、デモや座り込みを通じて自国内で行動を起こし、連帯声明を出し、政府や国際機関にメッセージを送り、同志サーダットとその仲間を解放するよう敵シオニストに圧力をかけるよう呼びかけた。

そして、アラブおよび国際的な人道的・人権的機関、特にアラブ弁護士連合とアラブ各国の弁護士会に対し、戦線書記長の釈放を妨害する責任を負うよう求めた。

また、この凶悪犯罪を非難し、書記長とその仲間の釈放を求める民衆の署名を組織し、それらの署名をアラブや国際の公的機関に送るよう呼びかけた。

戦線はこう続けた。何十年もの間、シオニストの敵は、自由と独立を求めるわが民族の要求に対して、ますます強硬かつ猛烈に拒絶してきた。このすべてにおいて、解放機構の有力指導部が行った一連の自由譲歩から利益を得ており、その筆頭が、悲惨なオスロ合意である。パレスチナの舞台における分裂と分断の状況、そして、ラマッラ政府とガザ政府の両方が行使する権威主義と覇権の状態をもたらした民主主義の不在の結果としての負の影響、さらに汚職の蔓延が、問題をさらに悪化させている。したがって、占領、分断、腐敗に反対し、不吉なオスロ合意を崩壊させるために動くことが、すべての人にとって緊急の課題となっているのである。

戦線は、わがパレスチナ人民のあらゆるカテゴリーの大衆が、これらの行進に参加し、大きな声を上げるよう訴えた。占領に反対、分裂に反対、オスロ協定に反対、腐敗、権威主義、支配に反対、民主主義の推進に賛成である。2005年のカイロ宣言と2006年の国民合意文書に基づき、PLOを再建すること。

パレスチナ解放人民戦線は、米英・パレスチナ間の取引によると、イスラエルの観光大臣「レハバム・ゼエヴィ」



の暗殺を実行した人民戦線書記長 Ahmed Saadat とその仲間の逮捕にパレスチナ自治区が関与したとして、痛烈な攻撃を開始した。

同戦線は、この作戦を、決定を下したにせよ実行に移したにせよ、それを行った者の額を辱めるものであると評した。

戦線は、“この犯罪と、抵抗の指導者や英雄に対する当局とその治安機関のその他の慣行は、当局とPLOの有力指導者が治安調整と、その失敗を証明し占領にのみ役立つ不毛で有害な交渉を通じて占領と締結した政治と治安の約束の継続に加えて、”と述べました。

戦線は、ヨルダン川西岸またはガザにおけるパレスチナ治安機関の役割の真の目的は、祖国とパレスチナ市民の安全を守ることであり、民族主義派とイスラム派の間で一度ならず合意されたように、占領の慣行と侵略に立ち向かうことであると強調した。

また、パレスチナ自治政府に対し、サーダットとその

仲間を逮捕した罪から教訓を得て、わが民族の利益と願望の真の代表者となり、自由、独立、帰還に対する正当な権利を擁護し、しばしばわが民族のためにならないその慣行と政策の真の見直しを推進する必要性を呼びかけた。

戦線は、「書記長の誘拐には、同志書記長とその仲間、占領軍刑務所のすべての囚人の解放前に、シオニスト指導者との交渉や会談がなかったことを明確に宣言して対応すべきだった。特に、アメリカとイギリスの援助のもと、当局指導部とその治安部隊によって取引が行われたのだから」と述べた。

戦線は、アブ・アリ・ムスタファ旅団の戦闘員に対し、占領軍刑務所から囚人を解放することができず、今後もしできない交渉や合意の失敗と引き換えに、囚人交換を実施して書記長とその仲間、すべての囚人を解放するために努力すること、それが最も有効で成功し最適な方法と考えることを訴えた。

# パレスチナ日誌

## 2022年2月

### 2月1日

- ・国際アムネスティ報告書イスラエルはアパルトヘイト国家であることを発表
- ・イスラエルは、国際アムネスティをの報告書をつよく攻撃した。
- ・入植者たちは、シェイク・ジャラで少女たちを攻撃した。
- ・パレスチナ民族イニシアチブのバルグティは、国際アムネスティの報告書を歓迎した。
- ・占領当局は、獄中者ガイス・ジャラダの家の取り壊しを止める訴えを退けた。

### 2月2日

- ・B' Tselem: 国際アムネスティの報告を歓迎した。
- ・カイロ、シヨクリとラジョウブが和平プロセスを動かす方法について、話あった。
- ・北部イラクのPKKの拠点へのトルコの急襲で死者
- ・ガザのコロナ、5人死亡、2469人の新たな感染者
- ・ナブロスのヨセフの墓に3000人の入植者が押し掛けた。
- ・占領軍が、西岸とエルサレムで13人の市民を逮捕した。
- ・ワシントン、イスラエルの行動をアパルトヘイト表現することを拒否。
- ・シリワンで、エルサレム人が、自分の家を自分の手で取り壊した。
- ・アルアクサモスクから女性を遠ざけた。
- ・占領軍は、バブ・アルアモウドエリアで二人の青年を攻撃し、逮捕した。
- ・マサフェール・ヤッタのハレット・アルダバー自然保護区の4つの井戸を取り壊した。
- ・パレスチナのコロナ、12死亡、10374人の新たな感染者。
- ・占領当局者たちが、シェイク・ジャラのサレム一家の家の周辺に突入した。
- ・カルキリヤ：イスラエルのごみを積んだトラックを追い返した。
- ・占領当局は、サルフィットの北で工事をとめる通知を6件に渡した。
- ・ドイツは、占領をアパルトヘイトとした人権レポートを拒否した。

### 2月3日

- ・ヘブロン南で、羊飼いを攻撃したことで3人の入植者が逮捕された。
- ・エルサレム：フレンチ・ヒルでの1500戸の入植者住宅が承認された。
- ・占領軍は、ハーンユニス南の農民たちに向かって発砲した。
- ・独立人士たちが、大統領にラマラでの中央評議会の招集を延期するように呼び掛けた。
- ・入植者たちは、ヤスフの土地で、22本のオリーブの木を伐採した。

- ・パレスチナのコロナ、6人死亡、7934人の新たな感染者
- ・占領当局は、タルクミヤのナビ・サレの墓の修復の作業を止めるように通知した。
- ・シェイク：金曜日に、パレスチナの家族の統合の700承認の発表がある。
- ・イスラエルはUAEにフティの攻撃に反撃するための援助を提供
- ・入植者たちは、シラト・アルーダハールとブルカの町の間の市民の土地を襲撃した。
- ・イスラエルとバハレーン、治安共同を強化することに合意した。
- ・入植者たちは、チュマス前哨地の退去をさせないように世給するデモを行った。

### 2月4日

- ・ガザのコロナ、5人死亡、3254人の新たな感染者
- ・占領軍は、カルキリヤとジェニンで、3人の市民を逮捕した。
- ・中央評議会メンバーオマル・シェハデが解放された。
- ・ジャバル・サビとベイトダジャンの衝突でジャーナリストを含む79人が負傷した。
- ・入植者たちは、カフル・アルディクで50本のブドウの苗とヤスフで40本のオリーブの木を根こそぎにした。
- ・入植者が、エルサレム人の活動家を攻撃した。
- ・カフル・カッダムの行進の弾圧で、3人が占領軍の銃弾で負傷した。
- ・ハマス：民族的合意からはなれた一方的に開催されるいかなる会議も合法的でない
- ・占領当局は、シラト・アルハリシヤの獄中者マハムド・ジャラダの家を取り壊す決定をした。
- ・ハマスは、アフリカ同盟にイスラエルの加盟を認めないように呼び掛けた
- ・パレスチナのコロナ、10人死亡、6570人の新たな感染者
- ・占領軍は、軍事検問所で、ブルキンの町の青年を逮捕した。
- ・ジェニンの南のヤバドでの衝突で2人の市民が窒息

### 2月5日

- ・占領当局は、エルサレムの丘に5250戸の入植地住宅を作ることを決定した。
- ・パレスチナのコロナ、8人死亡、3051人の新たな感染者
- ・パレスチナは、アフリカ同盟にイスラエルのオブザーバーの地位を認める決定を撤回するように呼び掛けた。
- ・ブルキンで、入植者たちが、25本のオリーブの木を根こそぎにした。
- ・ガザのコロナ、2人死亡、1324人の新たな感染者。

# オリーブの会通信 第17号(通巻23号)

- ・民主戦線は、中央評議会に参加することを確認した。
- ・ジェニン近くで、占領軍へ銃撃
- ・独立系の人士3人が中央評議会に参加しないことを謝罪
- ・アシュラウィは、中央評議会に参加しない理由を明らかにした。

## 2月6日

- ・占領軍は、アルーサイラ・アルーハリシヤとアナクの町を急襲した。
- ・ガザのコロナ、8人死亡、1938人の新たな感染者
- ・パレスチナのコロナ、14人死亡、4319人の新たな感染者
- ・人民戦線：アフリカ同盟がイスラエルのオブザーバー地位を認めない決定を歓迎した。
- ・ロードで、占領当局は家を取り壊した。11人が死んでいた。
- ・ベイトウマルで、全面商業ストライキ
- ・占領軍はガザ回廊の羊飼いと漁師を標的にした。
- ・人民戦線が、中央評議会の招集を拒否するデモをガザで行った。
- ・第31回中央評議会が始まった。
- ・ガザのコロナ、5人死亡、4000人の新たな感染者。

## 2月7日

- ・カフル・カセムで、入植者が車に蛮行を働き、反アラブスローガンを書いた。
- ・占領軍は、バブ・ハッタの近くでエルサレムの青年を攻撃したあと逮捕した。
- ・15年の追放のあとシェイク・ラエド・サラハは、アルアクサで祈りをささげた。
- ・20年を経過して、獄中者アハメド・シュウェイキは、釈放されたが、即座に尋問を受けた。
- ・ワシントンの圧力で、イスラエルはE-1計画を凍結した。

## 2月8日

- ・刑務所で20年を経たにも関わらず、元獄中者のアハメド・シュウェイキの拘束が延長された。
- ・ベツレヘムの南、アルーハデールの町で占領軍との衝突
- ・クネセットで第一回のリーディングで、パレスチナ人の家族の統合を禁止する法律が承認された。
- ・西岸での逮捕キャンペーン
- ・ガザのコロナ、2人死亡、3050人の新たな感染者
- ・パレスチナのコロナ、15人の死亡、7682人の新たな感染者
- ・アルアクサ旅団が殉教者を追悼し、報復を誓った。
- ・民族主義、イスラム勢力は、ナブラスの殉教者を追悼した。
- ・殉教者の魂を追悼するために、ナブラスは大規模なストライキを宣言した。

## 2月9日

- ・入植者たちgは、サイールの東で、老人を攻撃。
- ・人権ネットワークと277の団体が、イスラエルの占領実践を、アパルトヘイト確認。
- ・ベイタとバルカで、53人が負傷。浅慮軍兵士に向かって銃撃があった。
- ・ヘブロンで、入植者たちがパレスチナ人の車を攻撃。
- ・占領軍はシリアを爆撃、北部パレスチナで爆発の音とサイレンの音がした。
- ・国連事務総長グテレス：すべての入植活動は違法であり、辞めなければならない。
- ・ハンナ司教：入植地計画は、エルサレム人の存在への脅威であると警告。
- ・ガザのコロナ、4人死亡、2647人の新たな感染者
- ・占領軍は、6人の市民を逮捕した。
- ・入植者たちは、前哨地をつくりために、ネゲブのアルーザイドナのアラブ人の土地にテントを設置した。
- ・占領当局は、ナザレの3階建てのビルを取り壊した。
- ・入植者たちは、サルフィットの西で、60本のオリーブの苗を根こそぎにした。
- ・イスラエルの特殊部隊がジェニンで釈放された獄中者を誘拐した。
- ・パレスチナのコロナ、19人死亡、6091人の新たな感染者
- ・スーダンの特使が関係強化のために、イスラエルを訪問。
- ・イスラエルは、オフエル刑務所からの逃亡の企てを阻止したと主張。
- ・エルサレムで、入植者のバスに銃撃。
- ・青年たちが、マガジキャンプの東に侵入し、軍用車両を燃やした。
- ・中央評議会は、イスラエルの治安調整やめ、イスラエルの承認を停止すると決定。
- ・エルサレムの兵者への銃撃のあと、閉鎖と制限

## 2月10日

- ・ハマス、ジハード、人民戦線：中央評議会の発表した人事は違法である。
- ・米国大使：騒乱を拡大するので、入植地を訪問しない。
- ・国連は、ナブラスでの3人の殉教の後、エスカレーションを避け、平穏にすることを呼びかけ。
- ・つ占領軍は、キフィハリスの町を襲撃し、入植者たちの入場を安全なものにした。
- ・西岸での侵攻と逮捕
- ・ガザでのナブラスの殉教者のための家での葬儀
- ・入植者たちはキフィハリスの町を襲撃、市民の車両を攻撃。
- ・ガザのコロナ、7人の死亡と2519人の新たな感染者
- ・占領軍は、ハーン・ユニス東の農地に向かって発砲した。
- ・サルフィットの西で、入植者たちが、110本の苗を根こそぎにし、折った。
- ・パレスチナのコロナ、20人が死亡、5219人の新たな感染者。
- ・ドイツは、イスラエルの安全保障を保つためのコミットを確認した。;

## 2月11日

- ・アルーアルーブキャンプへの占領軍の急襲で、窒息者
- ・占領軍は、レバノンの国境を越えた者を逮捕
- ・入植者たちが、市民を攻撃し、イスラエル兵がヘブロンで若者を逮捕
- ・ドイツは、二国家解決方式による和平を支持することを確認した。
- ・マンスール・アツパースはイスラエルを擁護した。
- ・パレスチナのコロナ、17人の死亡と4040人の新たな感染者
- ・イスラエル人たちが占領と入植者のテロに反対するデモ
- ・ジャバル・サビとベイト・ダジャンの衝突で、救護隊員とジャーナリストを含む、73人が負傷した。
- ・ナクラで、占領軍、UNIFIL、レバノンの軍の話し合いが行われた。
- ・礼拝者が、アルアクサへの礼拝に向かっている時に逮捕、拘束が行われた。
- ・占領軍はハーン・ユニス、デイル・アルバラの東に発砲
- ・ガザのコロナ、6人死亡、1710人の新たな感染者
- ・ナブラスの南と東での占領軍との衝突で、銃弾での負傷者、窒息者
- ・シリワンで、70歳の老人が、自分の家を自分で取り壊している。
- ・エルサレムの北西で、ゴム被弾での負傷と、二人の兄弟の逮捕。

## 2月12日

- ・タムラで占領当局は、市民に家の取り壊しを強制した。
- ・レバノンの組合は、パレスチナ難民の職業の自由を阻止することを拒否した。
- ・占領軍の船が、ラファの海で、漁師に機関銃を発砲した。
- ・入植者たちは、ヤスフの土地で、80本のオリーブの木を折り、伐採した。
- ・スリフで、入植者たちがオリーブの木を根こそぎにし、農民たちを攻撃した。
- ・パレスチナのコロナ、13人死亡、1871人の新たな感染者。
- ・ガザのコロナ、6人の死亡と397人の新たな感染者。
- ・ベツレヘムの東、入植者たちが、市民がオリーブの苗を植えるのを妨害した。
- ・極右のベン・ギヴィルは、事務所をシェイク・ジャラに移すと脅している。

## 2月13日

- ・イスラエル首相に対するデモ
- ・数十人の入植者たちが、シェイク・ジャラの住人を攻撃し、負傷者
- ・入植者たちが、シェイク・ジャラで車で轢き、投石をされ負傷した。
- ・シェイク・ジャラで、入植者たちと占領軍の攻撃の中で、近隣の人々に緊張を高めた。
- ・オデー議員が、イスラエル治安相にムハammad・アルハラビの逮捕について聞いた。
- ・ガザのコロナ、11人の死者と1305人の新たな感染者
- ・入植者たちと占領軍の攻撃の中で、極右のベン・ギヴィルが事務所をシェイク・ジャラに移した。
- ・占領軍は、西岸とエルサレムで6人の市民を逮捕した。
- ・ボイコットプーマ：プーマ社に対するキャンペーンが世界中で行われた。
- ・占領軍は、ベイト・ウマルで、農業倉庫と井戸を取り壊した。
- ・入植者たちは、カフル・アドディクの5つの農業室を取り壊した。
- ・ファタハは、シェイク・ジャラでの日没の祈りへの参加を呼びかけ

## 2月14日

- ・パレスチナのコロナ18人死亡、3538人の新たな感染者。
- ・シェイク：エルサレムでの占領政策を止めるために集中的にコンタクトしている。
- ・占領当局は、獄中者省のパブリックリレーしよんとメディア担当の長官を逮捕

- ・ 占領軍は、家の取り壊しを目的として、シラト・アルハリシアで、市民が占領軍に反撃。
- ・ 占領軍は、入植者たちと対峙しているシェイク・ジャラの人々を攻撃した。
- ・ パレスチナのコロナ、18人死亡、3538人の新たな感染者。
- ・ EUは、シェイク・ジャラの展開に懸念を表明
- ・ アルビレで占領当局は、家を取り壊した。
- ・ 南部ガザのハーン・ユニスの東に、占領軍の機甲部隊の限定的な侵攻
- ・ 2日目、占領警察は、シェイク・ジャラの包囲を続けている。
- ・ ガザのコロナ、4人死亡、1776人の新たな感染者。
- ・ シラト・アルハリシアで占領軍との対峙で、一人殉教し、10人が負傷した。
- ・ ナブルス近くで、入植者の攻撃で市民が負傷。
- ・ サルフィットで、獄中者とシェイク・ジャラへの連帯するスタンディングが行われた。
- ・ ハーン・ユニスの東で占領軍は市民に催涙弾を発射。
- ・ 再び、極右ベン・ガフィールはシェク・ジャラを襲撃
- ・ 占領海軍は、北部ガザ海で、7人の漁師を拘束した。
- ・ ベツレヘムの赤十字の本部の前で、獄中者と連帯するスタンディング
- ・ ガザで、命は権利キャンペーンの二日目のデモ

## 2月15日

- ・ 円両軍は、西岸でハマスの指導者を含む、15人の市民を逮捕した。
- ・ ヘブロンで抗議者がタイヤを燃やした。
- ・ パレスチナのコロナ、13人死亡、3731人の新たな感染者
- ・ MADAは、ドイチェベレが5人のジャーナリストを解雇したことを調査する国際委員会の設置を呼びかけた。
- ・ ヘブロンで、獄中者への支援のための大規模な座り込みが行われた。
- ・ シェイク・ジャラは、兵舎に変わった。
- ・ 占領軍は、 Beit・ウマールとヘブロンで5人の子供を逮捕。
- ・ 入植者たちは、サルフィットで広大な土地を更地にした、
- ・ ヤッタの東、アルファキットで農業部屋を取り壊した。
- ・ ガザのコロナ、14人死亡、1640人の新たな感染者
- ・ シェイク・ジャラ、攻撃、逮捕、破壊と車への蛮行が続いている。
- ・ 占領軍は、7人の漁師を釈放した。
- ・ 叩き、攻撃、シェイク・ジャラで活動家アブフムスの事務所を没収した。
- ・ ヘブロンの南で、占領軍は、家と井戸を取り壊し、所有者を逮捕した。
- ・ 占領軍は、 Beit・ファジャルの入り口を封鎖。
- ・ 数時間拘束したのちに占領軍はヘブロンの子供を釈放。
- ・ パレスチナのコロナ、24人死亡、3648人の新たな感染者。

## 2月16日

- ・ ムハマド・アルハラビの裁判が169回目の延期となった。
- ・ パレスチナの女性が性的な攻撃をされたとして、6人のイスラエルの士官の裁判をよびかけた。
- ・ 占領軍は、12人のパレスチナ人を西岸で逮捕した。
- ・ ジェニンで、占領軍の特殊部隊が若者を逮捕した。
- ・ 占領軍は、西岸とガザでのエスカレートに備えている。
- ・ パレスチナのコロナ、19人の死者と2853人の新たな感染者
- ・ ガザのコロナ、7人死亡、1260人の新たな感染者
- ・ 専用軍は、ヨルダン渓谷で、市民のテントの近くに、数十人の兵士を動員している。
- ・ サルフィット、入植者たちは、50本のオリーブの木を根こそぎにし、農業道路にブルドーザーをかけた。
- ・ ナスララー：我々はドローンと高精度のミサイルの製造を開始した。
- ・ ガザでシェイク・ジャラを支援するデモが行われ、諸派は、エルサレムの剣2にレディ
- ・ 4日続けて、シェイクジャラの占拠を占領軍が続けている。
- ・ シェイク・ジャラを支援するデモに1948年内のアラブの都市への参加の招待状

## 2月17日

- ・ 占領当局は、ラス・アルティンの学校の取り壊しを通知した。
- ・ 占領軍は、3人の青年を負傷させた。西岸での逮捕と侵入
- ・ 占領軍は、ハーン・ユニスの東の農地に発砲。
- ・ オーストラリアは、ハマスをテロ組織として規定した。
- ・ 北部ガザ海で、占領軍のボートが漁師をターゲットにした。
- ・ 占領軍の軍用機がシリアを爆破した。
- ・ シェイク・ジャラで、クネセット議員の会議 - エルサレム人の弾圧と殴打

- ・ イスラエルは、イランのドローン攻撃の可能性に備えている。
- ・ 国連はイスラエルに、取り壊しと追放をやめるように呼び掛けた。
- ・ イスラエルは、シェイク・ジャラ近隣に監視カメラを設置した。
- ・ パレスチナのコロナ、18人死亡、2928人の新たな感染者
- ・ ガザのコロナ、7人死亡、1249人の新たな感染者
- ・ 入植者たちは、バブ・アルアムドで、行進を組織し、エルサレム人を攻撃した。
- ・ 占領軍は、ガザ国境のドローンを撃ち落とした。
- ・ イスラエルは、ガザの国際調査委員会がその領土に入ることを許可しない決定をした。
- ・ イスラエルは、ヒズボラのドローンを撃ち落とした。
- ・ 米国の下院議長ペロシは、二国家解決方式に平和を作ることを支持を再確認した。
- ・ サルフィットの西、デイル・バルートの町で、占領軍は、7人の少年を逮捕した。
- ・ 占領軍は、ヨルダン渓谷で、トラックタ〜を押収した。

## 2月18日

- ・ ガザのコロナ、5人死亡、1603人の新たな感染者
- ・ JICAは、運搬トラックとコンテナを固形ゴミの回収と運搬のためにガザの評議会に渡した。
- ・ 衝突が発生、ジャバル・サビでの入植者たちに対峙するための動員が行われた。
- ・ 援軍の増員、イスラエル軍はエルサレムと西岸で緊張が高まることへの準備をしている。
- ・ ジャバル・サビで占領軍との対峙で、占領軍との対峙で、100人以上が負傷した。
- ・ 占領軍は、シェイク・ジャラ付近でのデモを弾圧し、入り口を閉鎖した。
- ・ パレスチナのコロナ、13人が死亡し、2545人の新たな感染者。
- ・ アラブ列国議会同盟は、占領を終わらせるためのパレスチナ人を支持する決議を採択した。
- ・ イスラエルは、レバノンから発射されたドローンの迎撃に失敗。
- ・ カフル・カダムの行進の弾圧で、子供が占領軍の銃弾で負傷し、数十人が窒息した。
- ・ 国連と故核再機関の関係者が人々を支援するためにシェイク・ジャラを訪問した。
- ・ ヒズボラ：ドローン”ハッサン”が占領地の上を40分間飛行した
- ・ カルキリヤで入植者にひかれて子供が負傷。
- ・ 占領軍の兵士は、ブルキンで、シュアイビー家をその土地から追放した。
- ・ サルフィットで、入植者たちは市民を攻撃した。

## 2月19日

- ・ 占領軍は、エルサレムの旧市街で、二人の若者を逮捕し、ジャーナリストを負傷させた。
- ・ ジェニン：アルーアルカの村での占領軍との衝突で、少年が逮捕された。
- ・ イザハール地区で、入植者たちの投石で二人の市民が負傷した、
- ・ ドイツ、フランス、エジプト、ヨルダンの外相がパレスチナーイスラエル紛争について論議した。
- ・ パレスチナのコロナ、19人死亡、1255人の新たな感染者
- ・ ガザのコロナ、7人死亡、278人の新たな感染者
- ・ 占領軍は、ヤバドの市民の家を襲った。対立に
- ・ 報道：西岸でネグブと同様にユダヤ民族基金が入植活動の支援を再開するために戻っている
- ・ 占領軍は、ジェニンの南で、市民の動きを妨害している。
- ・ 占領軍は、シェイク・ジャラで青年たちを攻撃した。
- ・ カフル・カダムの衝突で、銃撃、窒息での負傷

## 2月20日

- ・ サウ一家の家、家族の住居であり、連帯の場所、継続的な嫌がらせと攻撃を受けている。
- ・ ガザのコロナ、5人死亡、527人の新たな感染者
- ・ 占領裁判所は、シラト・アルハリシアの獄中者ムハマド・ジャラダトの家の取り壊しを承認した。
- ・ パレスチナのコロナ、15人死亡、1928人の新たな感染者
- ・ 入植者たちは、サルフィットの東のヤスフ町で、数十本のオリーブの木を根こそぎにした。
- ・ 極右ビン・ガフィル家の前に、事務所を移したことで、シェイクジャラの緊張がたまる。
- ・ 占領軍は、中央ガザの羊飼いにに向けて発砲し、催涙弾を発射した。
- ・ 占領軍は、北部ヨルダン渓谷で、3人の若者を拘束した。

# オリーブの会通信 第17号(通巻23号)

## 2月21日

- ・ハマスは、捕虜交換での進展を否定。
- ・占領軍は、ラマラの西で、農業キヤラバンの撤去を通知した。
- ・イスラエルは、国際同盟シティのメンバーの入国の禁止を検討している。
- ・イスラエル：われわれは、核プログラムについてのいかなる合意も認めない。
- ・シェイク・ジャラの封鎖の9日目
- ・占領当局は、カフル・アディクの5軒の農業部屋建設工事を止めることを命じた。
- ・西岸とエルサレムで大規模な逮捕キャンペーンが行われ、視覚障害者も含まれている。
- ・シェイク・ジャラで3人負傷、障害のある青年を攻撃。
- ・モロッコとイスラエルは経済貿易協定に署名
- ・教会指導者たちは、イスラエルのエルサレムでも土地の没収計画に抗議
- ・ガザで獄中者に連帯する大規模なデモが行われた。
- ・占領軍は、 Beit・ウマルの入り口を閉じた。
- ・ラファの東で、占領軍の機甲部隊の限定的な侵攻
- ・オリーブ山の国立公園の拡大の計画は凍結された。
- ・ワクフ：占領当局は、イブラヒムモスクの周辺の開掘を続けている。

## 2月22日

- ・ラマラ近くで入植者の車への攻撃で、二厘も青年が負傷した。
- ・ガザのコロナ、4人死亡、808人の新たな感染者
- ・占領軍は、ハーン・ユニスに催涙ガスを発射した。
- ・拡大と閉鎖が続いている。アルサウド一家の家への急襲
- ・ラマラ近くで、入植者が車を攻撃し、二人の青年が負傷した。
- ・イスラエルの当局は、48年領土のティラで110の取り壊し命令を手渡した。
- ・パレスチナのコロナ、14人死亡、2117人の新たな感染者
- ・トルカラムで、獄中者を支援するスタンディングが行われた。
- ・カフル・アディクで入植者たちが25本のオリーブの木を根こそぎにした。
- ・占領当局は、オフェル刑務所の獄中者に集団懲罰を加えた。

## 2月23日

- ・ガザ：占領軍機甲部隊が、ハーン・ユニスの東に侵入し、マガジの東に発砲した。
- ・ベツレヘムで、子供の殉教者モハメド・サラハを追悼するために全面ストを行った。
- ・アルフィット：占領軍は、カラフト・バニ・ハッサンの町を急襲し、5人の青年を逮捕した。
- ・占領軍の戦闘機がシリアのクネイトラを爆撃
- ・西岸での逮捕キャンペーン
- ・アルーハデルの町で子供死のあと、怒りの対峙と行進
- ・喜びと不安、サレム一家の家の退去の凍結の決定
- ・占領軍は、”ホルムズ”ドローンで占領したレバノンの領土に飛ばした。
- ・エルサレム：女性たちの間での逮捕
- ・マサフェール・ヤッタで占領当局は、8件の家を取り壊した。
- ・シェイク・ジャラで連続2週間の攻撃と封鎖。
- ・ガザのコロナ、6人死亡、789人の新たな感染者
- ・少年モハメド・サラハの遺体が引き渡された。
- ・パレスチナのコロナ、19人の死亡と2042人の新たな感染者
- ・占領当局は、獄中者オマル・ジャラダの家の取り壊しを決定した。
- ・UNRWAのガザの所長は、回廊の難民の81%は、貧困ライン以下であるとかった。

## 2月24日

- ・ラマラの北西の占領軍の軍事ポストに、発砲
- ・占領軍は、 Beit・ウマルを襲撃し、大学生を逮捕した。
- ・ガザのコロナ、6人死亡、659人の新たな感染者
- ・西岸で、占領軍は逮捕、襲撃のキャンペーンを開始した。
- ・イスラエルのダマスカス近隣への襲撃で、3人のシリア兵が殺された。
- ・ロシア軍がウクライナに侵略を開始した。
- ・二人の獄中者、ハシャム・アブハワシとミクダド・アルカワスメが釈放された。
- ・サルフィットの西で、占領軍はブルドーザーを没収し、ドライバーを攻撃
- ・ラビド：イスラエルは、ロシアのウクライナへの危険な攻撃を非難する。
- ・パレスチナのコロナ、11人死亡、1727人の新たな感染者。
- ・ベネットは、ウクライナのユダヤ人に、イスラエルに移民するw子呼びかけ。
- ・英国は、BDS運動の禁止を準備している。
- ・イスラエルの特殊部隊が、アルーアマリキャンプの二人の青年を逮捕した。
- ・占領当局は、ジャバルムカベルの家族に、家の取り壊しを通知。

## 2月25日

- ・ガザのコロナ、4人死亡、509人の新たな感染者
- ・占領軍は、ヘブロンの家を急襲したあと青年を逮捕した。
- ・イブラヒムモスクの虐殺は28年後も続いている。
- ・入植者へのアッディクでの反撃で、市民が負傷。
- ・ジェニンの北で、イスラエル軍の銃弾で、市民が重症
- ・ラマラの東で、イスラエル人のバスに炎瓶が投げられた。
- ・カフル・カッダムの行進の弾圧で、3人の青年が占領軍の銃弾で負傷し、4人目が逮捕された。
- ・パレスチナのコロナ、17人が死亡、1594人の新たな感染者。
- ・シェイク・ジャラで、金曜礼拝行われた。
- ・イブラヒムモスクの虐殺を追悼する行進のあとヘブロンで、衝突、窒息者が
- ・2022年の最初の市営判決、アダメールがガザでの死刑判決を出すことをやめることを要求。
- ・ペイルートで、ハマスの代表団がヒズボラの指導者たちと会談
- ・入植者たちは、カフル・アッディクの農業部屋を破壊した。

## 2月26日

- ・獄中者とシェイク・ジャラを支持するアララ三角地帯でのスタンディング
- ・ジェリコで、占領軍は、ジェニンの二人の青年を逮捕。
- ・ガザのコロナ、87人の新たな感染者
- ・ヒズボラの書記長が、ハマスの代表団を迎えた。
- ・占領当局は、ジャバルムカベルの家族に、家を取り壊すことを強制した。
- ・占領軍がアルーヤモウンを襲撃し、衝突が起こった。
- ・釈放された獄中者のハデル・アドナンがナブルスで銃撃された。

## 2月27日

- ・数百人がテルアビブで、ロシアのウクライナへの戦争に反対のデモ
- ・占領軍は、ジェニン県のヤバドの町とファクア村を襲撃した。
- ・ナブルスで、釈放された獄中者ハデル・アドナンが銃撃された。
- ・ウクライナは、イスラエル人にロシアに対する戦闘に参加するように呼び掛け
- ・ガザのコロナ1人死亡、328人の新たな感染者
- ・ベツレヘムで、占領軍は3人の若者を逮捕した。
- ・占領当局は、エルサレムの土地を没収し、4つの商業施設の取り壊しを通知した。
- ・ジハード：イスラエル人の銃弾がシェイク・ハデル・アドナンに発射された。

## 2月28日

- ・占領当局は、ヤッタの東の3戸の家の作業をやめる用の脅かした。
- ・バブ・アルーアムードで。二人の子供を逮捕した。
- ・ロシア：シリアについての軍事的調整は継続する
- ・占領軍は、西岸で5人の市民を逮捕した。
- ・ハーン・ユニスへのイスラエル機甲部隊の限定的な侵攻
- ・マサフェール・ヤッタ農地への入植者の攻撃で、市民が負傷
- ・Beit・ウマルへの首領で、窒息と二人の元獄中者を逮捕
- ・マサフェール・ヤッタで、保護されたエリアのフェンスの取り壊しの二つの通知を占領当局が行った。
- ・イスラエルは、ロシアを非難する国連決議に投票する決定をした。
- ・ガザのコロナ、2人死亡、507人の新たな感染者
- ・アルーアクサへ到着した数百人の市民への占領軍の弾圧で31人が負傷した。
- ・パレスチナのコロナ、12人死亡、1256人の新たな感染者
- ・211の人権、市民団体が国際アムネスティの報告を尊重するように呼び掛け
- ・西サルフィットで入植者たちが家族を攻撃



パレスチナ人に愛されている歌

# パスポート

歌詞 モハムド・ダルウイシュ

曲と歌 マルセル・ハリーフエ



彼らは私を知らなかった

その影で

私の色を吸収した

パスポートに

私の傷は、彼らにとってはギャラリーの展覧会のよ  
うなものだった。

写真を集めるのが好きな観光客のために

彼らは私を知らなかった

手のひらを陽に当てないで

木は私を知っているから

雨の歌も私を知っている

木が私を知っているから

雨の歌はすべて僕を知っている

月のように青ざめた私を置いていかないでください  
(女に)

月のように ...

私の手のひらを追って扉まで来た鳥たち

遠くの空港の

すべての麦畑

すべての監獄

すべての白い墓

すべての国境

揺れるハンカチの数々

すべての目

全ては私と一緒にいたのですが、彼らは

パスポートに載らないために、すべてを失ってしまった  
のです。

自分の名前と所属の感覚を恥じることを余儀なくさ  
れ

自分の手で作り上げた汚れの中で

ヒヨブの忍耐が新しい日の空に向かって呼びかけ  
る。

私を見せしめにしないでください。

紳士、紳士、預言者たち

木に名前を聞かないでください

谷にその母を問うなかれ！

わしの額から光の剣が出る

私の手から川の水が吹き出る。

すべての人間の心は、私の国籍です

だから、このパスポートから私を解放してください ...

\*この詩の作者であるマフムド・ダルウイッシュ  
は、ここで自分の苦しみと忍耐を表現している人  
が、例として挙げたヒヨブと同じ量の忍耐を示す  
ことを強制されたくないことを示したいと思っていま  
す。それが、彼が「二番目」と言っている理由で  
ある。彼は第二のヒヨブになりたくないのだ。

<https://lyricstranslate.com>



# パレスチナの詩

## 川は渇きで死んでいる

ヨルダン川

モハムード・ダルウイシュ

川があった  
2つの岸があった  
雲の雫で育てた天の母がいる  
小さな川がゆっくりと流れ  
山の峰から下りてきて  
村やテントを訪れ、まるで魅力的で賑やかな客人  
のように  
キョウチクトウの木やナツメヤシの木を谷にもたら  
す

夜行性の人たちに笑いかけながら  
「雲のミルクを飲もう  
馬に水をやる  
エルサレムやダマスカスへ飛んでいく」。  
時に勇ましく歌い  
ある時は情熱的に  
兩岸を持つ川であった  
天の母が雲から滴る雫で育ててくれた  
しかし、彼らはその母親を誘拐した  
だから水不足になった  
渇きでゆっくりと死んでいく

# おいしいパレスチナ

## 伝統的なシシケバブ

伝統的なシシケバブ

4～6人前

64点

コメントを追加する

栄養成分 (1食分)

690 カロリー

52g 脂肪

7g 炭水化物

47g 蛋白質

栄養成分表示

(栄養成分は成分データベースをもとに算出したもので、あくまでも目安です。)

伝統的なシシケバブは、羊肉を串に刺して熱々に素早く焼いたものです。串焼きのレシピで重要なのは、肉を長く漬け込み、ラム肉に味を染み込ませることです。前日の夜から、あるいは朝のうちに肉を漬け込んでおけば、あとは手早く焼くだけで、手間のかからない夕食が完成します。

まさに作り甲斐のある定番料理です。串焼きにはすでに焼き野菜が入っているので、あとはご飯やピタを添えるだけ。クスクスやタブーラムもシシケバブのサイドメニューとしてよく使われます。

材料

シシケバブ用

ラム肉 2～2.5ポンド (切り落とし、1インチ角にカット)

パプリカ (色を問わず) 中3個 (1インチ幅に切る)

赤玉ねぎ大1個 (1インチ幅に切る)

マリネ用

オリーブオイル 1/3カップ

しぼりたてレモン汁 大さじ4

海塩 小さじ2



挽き肉クミン 小さじ1

生姜のすりおろし 小さじ1

挽きたての黒胡椒 小さじ1

レモンとライムのくし形切り (飾り用)

作り方の手順

串焼きに必要な材料

プラスチックかガラスの小さなボウルにマリネの材料 (オリーブオイル、レモン汁、海塩、クミン、おろし生姜、黒こしょう) を入れて混ぜ合わせる。

マリネ液の材料

再封可能な容器 (大きめのジッパー付き袋が最適) に、ラム肉とマリネ液を入れる。マリネ液とラム肉を入れ、マッサージするように混ぜ合わせ、袋を閉じる。2時間から24時間、肉をマリネ液に浸して冷蔵庫で保管する。

肉にマリネ液を塗る。

グリルを強火で予熱しておく。ラム肉、玉ねぎ、ピーマンを串に刺し、それぞれを混ぜ合わせるか、肉だけ、野菜だけの串を作る (下記レシピ参照)。

グリルを予熱し、ケバブを作る。

熱したグリルにケバブを並べ、蓋をしなくて約8～10分焼く。2分経過したところから、串を裏返して別の面を焼く。2分おきに、4つの面がすべて焼けるまで繰り返す。ラムの塊が1インチより大きい場合は、もっと長く焼く。

ケバブをグリルに入れる。

お好みの焼き加減になったら、グリルからケバブを取り出します。

## 守ろう！オリーブの木を カンパのお願い



### オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。  
パレスチナの農民の土地を守る闘い、  
生活を守る闘いを支援します。  
集まった基金は、パレスチナ農業  
労働委員会連合 (UAWC) に送ります。

郵便振替

記号番号：00960-2-303500番

名称：オリーブの会 (オリーブノカイ)

他行等から振り込む場合

店名 (店番)：〇九九店 (099)

預金種目：当座

口座番号0303500

# オリーブの会通信 第17号(通巻23号)

以下がフェイスブックによって規約違反としてオリーブの会のFBページが投稿できなくなった原因の文書です。

人民戦線は、戦士カダー・アドナンに対する罪深い攻撃を強く非難し、わが民族全体とその民族運動に対する攻撃と見なす

2022年2月27日 | 09:34

パレスチナ解放人民戦線が発表したプレスリリース

パレスチナ解放人民戦線 (PFLP) は、昨日土曜日の夕方、ナブルス市において、イスラム聖戦運動の指導者、捕虜解放者カダー・アドナンに対する罪深い攻撃を強く非難し、抵抗の旗の擁護者と降伏のアプローチを拒否する人々の声を黙らせることを目的としたすべての疑わしい試みに直面して、彼との完全な連帯を表明した。

戦線は、戦闘員アドナンが継続的に標的とされ、襲撃事件が繰り返されていることは、第一に、わが民族の市民と戦闘員を保護する責任を負う当局の指導部と治安組織に責任があると考え、戦闘員に対するこの一連の攻撃の継続は、シオニスト敵とわが民族の抵抗意志を打ち砕くその継続的試みにとって純利益となる、と述べた。

戦線は、過激派アドナンとすべての抵抗運動家に対する攻撃は、パレスチナ人全体とその民族運動に対する攻撃であり、犯罪者に命令を下し、実行し、隠蔽した者は、自由の戦士であるカダーアドナンに対して行ったことに対する抑止力のある罰を受けるべきであることを強調した。

戦線は、わが人民とその民族運動の大衆に、わが人民にとって重荷となっているこの不条理な行動に立ち向かうための努力を結集するよう呼びかけた。

戦線は、自由戦士であり捕虜であるカダー・アドナン、そして彼とともにどこにでもいるわが民族のすべての戦士、その声は広場にとどまり響き渡り、抵抗の継続を促し、和解、降伏、安全調整のアプローチを拒否することを強調し、声明を閉じた。

パレスチナ解放人民戦線

中央情報部

27-2-2022



ウクライナとロシアを仲介するベネットイスラエル首相



テルアビブでの反戦デモ

## 今号の内容

- ウクライナとパレスチナ・・・1
- ウクライナ危機と政権転覆戦争への変貌・・・3
- 変化する世界の中でのウクライナの悲劇・・・4
- 中央評議会とそのおこぼれに群がる左派・・・5
- ジェリコ刑務所襲撃と指導者サアダト・・・6
- パレスチナ日誌・・・9
- パレスチナの愛した歌ーパスポート・・・13
- パレスチナの詩・・・14
- おいしいパレスチナーシシケバブ・・・15
- トピック・・・16



3月6日エルサレムのバブ・ハッタ近くで占領軍に青年が射殺された



3月6日占領当局は獄中者ルバ・アンを釈放した



3月7日ガザでの国際女性デーを記念してのデモ